



溜め池の水生昆虫を観察する小学一年生

(特非)ぐるったネットワーク大町

北アルプス源流域における、地域の学び合いから始まるフィールド保全と交流活動

中学生と地域をつなぐための報告書作成と発表会開催

各1冊・回

地域の固有性を活かした体験プログラムの開発

10本

活動の全体目標に対する達成度

40%

一般助成

1年目

実践

課題

- 市内中学生の総合的な学習の時間を使った地域学習と、地域のまちづくり活動がつながらずもったいない。
- 地域の良さを掘り下げて発信することが不十分である。

活動内容

- 源流域の地域資源の調査とフィールド研修を行い、案内人のスキルアップと新規案内人獲得を行った。
- 市内中学校1校の1学年の地域学習をサポートし、その学習の成果を含めて市内4中学の地域学習の記録を40頁の冊子にまとめ、市と合同で市民向けの発表会を開催して90人の参加を得た。
- 地域の固有性を体験できるツアープログラムを開発し、市内小学生を含むツアーの受け入れとフィールド保全を行った。



発表会で報告書を持つ市内3校の中学生

成果と工夫したポイント



成果

- ・課外学習を受け入れる小学校が2校2回から3校5回に増えた。
- ・冊子と発表会の準備をする中で学校側との信頼関係ができ、サポート対象の中学校が1校から2校に増えた。
- ・新規プログラム6本が開発できた。遊歩道が3km整備された。

工夫

発表会では、行政を巻き込み主導してもらうことで学校・地域・行政の連携が実現し、高評価を得た。

今後の課題

- 中学生にもっと地域に出てきてもらうため、年度当初から学校と連携し、早めに情報発信を行う必要がある。
- 新規案内人を増やすため、観光協会等と連携して、広く一般に向けたガイド養成を行う必要がある。